

平成 24 年 10 月 1 日
発行責任者：管理者 細江 雅彦
編集：市立恵那病院広報委員会
http://www.enahp.enat.jp/
E-mail:enahosp@enat.org

なんじゃもんじゃ

市立恵那病院には

放射線専門医がいます!?

市立恵那病院における 遠隔画像診断システムの紹介



病院長 浅野雅嘉

市立恵那病院は基本理念で、「地域住民のために、・・・質の高い、・・・医療を展開します。」と謳っています。今回は、当院が実践する「質の高い医療の展開」について、特に診断部門を中心に紹介します。

皆さんが医療機関に来られる時（受診時）は、何らかの体の不調や、怪我（これを医療用語で「主訴」といいます）を理由としていきます。この主訴の原因や、故障の部位を見つけることを「診断」と呼んでいます。診断ができて、初めて「治療」が開始でき、その成果として「治癒」（治ること）があるのです。まとめますと、診療は、主訴→診察・診断→治療という手順により構成されています。

具体的な例を挙げて説明します。貴方が「お腹が痛い。」という主訴で病院を受診したとします。病院では、お腹が痛い原因は何かと探るため、いろいろな検査をして、原因を特定（診断を下す）します。実は、お腹が痛くなる原因には、胃十二指腸潰瘍・胆嚢胆管結石症・膵炎・腸閉塞・尿管結石・子宮付属器炎（女性の場合）・消化器の癌・消化管穿孔・便秘・ヘルニア（脱腸）・アニサキスなどの寄生虫症・・・まだまだいっぱいあります。正確な診断ができてはじめて、投薬・手術などの治療ができ、その効果が挙げれば治る（腹痛がなくなる）のです。

「基本理念」
私たちは地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。
「基本方針」
一、患者さまの権利を尊重し、患者さま中心のチーム医療を展開いたします。
二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。

これまでの説明で、正確な診断がいかに大切であるかお分かりいただけたと思います。当院では、この診断を下すための様々な診断機器を設備しています。その中でも、2009年に市が

整備した、CT・MRIは最新の高性能を有する画像診断装置です。今日、画像機器の進歩に伴い、画像診断の重要性が増していますが、それぞれの医療機関が放射線科医を常勤医として雇用することは困難な状況です。

そこで、当院では、当協会が運営する東京北社会保険病院と遠隔画像診断システムを構築しています。簡単に説明しますと、市立恵那病院と東京北社会保険病院とを専用のインターネット回線で結び、当院で撮影されたCT・MRIの画像を瞬時に東京北社会保険病院へ送り、その十数名の放射線専門医が画像診断をし、レポート（報告書）を当院の電子カルテに届けるシステムです。例えば、「腹痛の患者さんで、お腹のCTを30秒ほどで撮影し、救急の場合は15分後には、東京の放射線科医の報告書が恵那病院に届いた。」という事例もありました。

当院における遠隔画像診断システムは、まさに「市立恵那病院には放射線専門医が常勤でいる!？」と同じ成果が得られています。近年の遠隔画像診断件数は、年に4000件程あります。更には、遠隔画像診断により、特殊な血管造影検査や血管内治療が必要な場合には、東京から放射線専門医に、新幹線や自動車で、直接当院へ来ていただいています。今までに20数回、このような高度な医療が提供できた実績があり、患者さんが名古屋や東京の大規模専門病院に行かなくても、恵那の地で同等な医療を受けていただくことができました。

以上のように、当院では高性能の医療診断機器を、有効に活用して、「質の高い診断・治療の提供」に努めています。また、恵那医師会員の医療施設と開放病床の連携を結び、ここに紹介しましたCT・MRIの撮影と遠隔診断システムをご利用していただけるように開放しております。市立恵那病院では、今後とも、良質な医療の提供に努力していきたいと思えます。



DPCC委員会の紹介

(1) DPCCとは

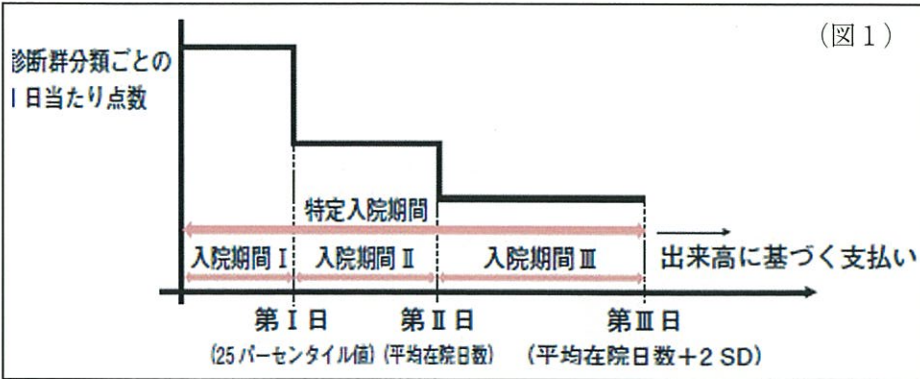
当院をはじめとして、現在では殆どの病院で一般病棟の入院費についてDPCC・PPDPS（診断群分類による包括支払制度・以下DPCC）を採用しています。

この制度は実際に行った診療の累積で医療費を決定する従来の方式（出来高払い）とは異なり、診療の対象となった病名と手術等の有無によって診断群が決定され、それぞれの1日当たり医療費に入院日数を掛けて医療費が決定されるものです。

(2) 標準的診療の必要性

DPCCにおける1日あたりの医療費・入院期間は診断群ごとの全国平均から算出され、入院日数が長くなると医療費が下がる仕組みになっています。（図1）平均値から大きく外れる診療（薬の使いすぎ、入院日数の延長）が多いと病院の経営に悪影響を及ぼします。

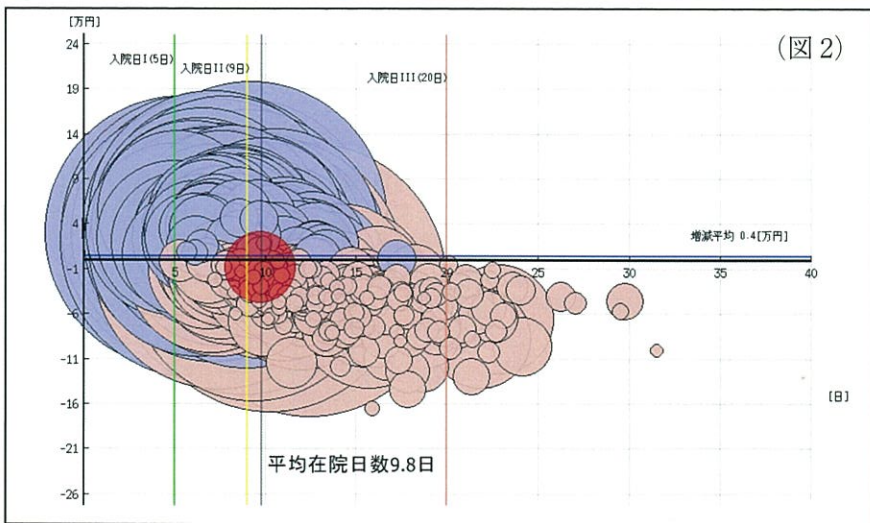
また、診断群によっては併存病名・処置などにより医療費や期間が変わるケースもありますので、一つ一つの症例について診療内容を分析し、①診療の対象とした病名は何か（何の病気の



(3) DPCC委員会の役割

当院はDPCC委員会を設置し、診療内容について検討することで自院の診療を標準的診療と比較し、医療の質と経営の向上を図っています。

治療と判断するのが適切か）②診断群が変わる病名や手術処置がないかを分析・判断する一方、診断群ごとの診療内容が全国平均（標準的診療）とかけ離れていないかを分析し、業務改善を図る必要があります。



具体的にはDPCC分析ソフト（EVE）を使用し、他院のデータとの比較を行い、診療内容に無駄がないか、診断分類の決定に間違いがないか分析・検討を行い（図2）院内へ周知する活動を行っています。

（医事課長 安藤嘉英）

今後は他の委員会と連携して院内学習会の開催、他院との連携など活動を広げて行きたいと思えます。

婦人科外来(検診)の 充実について

当院では、岐阜大学医学部産婦人科教室の協力のもと、平成19年7月より第2・第4土曜日の午前中、婦人科の外来を開設してまいりました。

地域における医師不足は深刻な状況ではありますが、この度、非常勤医師の採用により、10月より毎週水曜日の午前中にも婦人科外来診療を開始する運びとなりました。

また、本年8月には、外来担当の経験豊かな常勤助産師を採用し、併せて婦人科の充実を図りました。

外来診療につきましては、子宮がん検診などを中心に充実してまいります。

診療にあつては、**初診を含め完全予約制**とさせていただきますので、ご理解をお願いいたします。

予約(婦人科のみ)を希望される場合は、下記の専用ダイヤルでお申し込みをお願いいたします。

今後も皆さまの声を聞きながら、助産師による相談事業の検討や地域の医療施設間連携を推進させて頂きたいと考えておりますので、皆さまのご理解と協力をお願いいたします。

電話番号…0573-20-11657 (診療予約専用ダイヤル)
受付時間…14:00～17:00

新しい仲間が増えましたので紹介します

森 志穂【助産師】

8月1日より市立恵那病院で勤務することになりました森 志穂と申します。助産師として女性の健康に関してお役に立てることがあればと思っておりますので、外来でお会い出来た時に相談や提案などお声を頂ければ幸いです。



瀬織 マキ
【看護師】



森 あゆみ
【看護師】



姜 佳延
【ケアスタッフ】



原ひろ女
【ケアスタッフ】



安藤嘉英
【医事課長】



看護師募集のお知らせ

職 種…看護師(若干名)

休 日…日曜日、土曜日、祝日を含めて月7.5日以上

有給休暇…最大年間20日(採用月により変動します)

特別休暇…年末年始、リフレッシュ休暇、産前産後休暇、忌引等

※臨時職員(日勤勤務者) 看護師も募集しています。左記までご連絡下さい。

市立恵那病院 電話…0573-26-2121 (担当 清原・渡部)